

産業能率大学 情報マネジメント学部

経営分析	履修年次	3・4	
	単位	2	
小田 実	配当期	後	
	授業方法	講義 / 対面	
授業の内容			
<p>[授業の概要] 必要最低限の会計知識の解説から入り、本授業のみで完結する形で「経営分析」を学ぶ。 数値分析については、経営診断や入社後の実務で使用する機会が多い「成長性分析」「収益性分析」「キャッシュ・フロー分析」を中心に、具体的な対応策が取れる項目を学ぶ。定性分析については、数値分析に入る前に必ず行われる「リスク分析」を行う。「成長性分析」「リスク分析」を踏まえ、産業能率大学が特に優位性を発揮する「可視化分析」についても学ぶ。就活でも役立つ「セグメント分析」については、課題レポートにて実習する。代表的な業種の「経営指標」について学び、情報マネジメント学部で学んだことが、就職後にどのように活かせるかについても解説する。実務で即戦力として使える分析事例については、実際に PC によるデータ分析実習を行う予定である。</p> <p>[担当教員の実務経験] 大手国際監査法人にて、「会計監査」「内部統制監査」や「株式公開支援」「情報戦略策定」「経営コンサルティング」等の業務を担当。神奈川県ベンチャー支援ファンド運営、関東経済産業局クラスターマネージャー等も担当。</p> <p>[実務経験に基づく項目] ベンチャーからグローバル企業にわたる起業から清算までの各ステージ、最先端デジタル企業を含む様々な業種について関与経験あり。経験に基づき、企業規模・ステージ・業種ごとの最適な経営分析法について講義する。</p>			
この科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「経営分析」の目的と必要最小限の手法について説明することができる。 ・企業の本質を見極める「定性分析」について理解し、自己のキャリアプランに役立てることができる。 ・企業という大まかな括りでなく「事業セグメント」「ビジネスモデル」という視点で経営分析を行え、そのために必要な「経営指標」を取得するスキルについて理解できる。 			
成績評価の方法			
授業出席、授業外学習、小テスト、提出課題、定期試験により総合的に判断する。			
週	授業項目	週	授業項目
1	ガイダンス	8	収益性分析の基礎
2	「経営分析」の基礎	9	収益性分析の実務
3	「経営分析」最前線	10	収益性分析と投資効率
4	経営者分析	11	セグメント分析
5	成長性分析	12	キャッシュ・フロー分析
6	可視化分析の基本的な考え方	13	ビジネスモデルと経営データ分析
7	可視化分析の実務	14	まとめ